

「聴覚障害理解のための教材開発とそれを活用した授業」

志布志町立香月小学校（ことばの教室）宮内まり子

ことばの教室と在籍学級とのやりとりを通して

1 はじめに

Y君は小学5年生である。小学2年生の2学期末に「サ行の発音がうまくできない」という主訴で教育相談を受けた。声量が弱く口型がはっきりせず全体的に発音が不明瞭になっているほかに、聞き返しが多く初対面では十分な会話が成立しにくい状況が見られた。耳鼻科での聴力検査を受診することをお勧めして、3学期から通級することになった。

通級指導の初日に資料1のような聴力であることが知らされ、ここから保護者も一緒に「聴覚障害」や「聞こえにくさ」「コミュニケーション」「家庭や学校での配慮事項」について学んでいくことになった。

2 前担当の記録から

初年度はサ行の発音練習を中心に学習。学級の中でのともだち間で起きる問題について、Y君の話し相手、聞き役になっていた。

3 4年生時の学習をスタートするに当たって

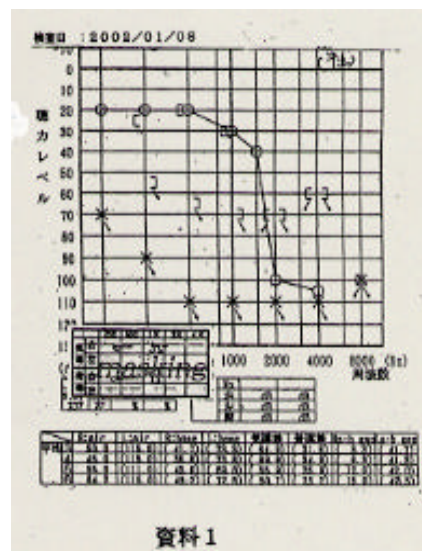
前担当との引継ぎや本児の実態・保護者との話し合いから、4年生の学習内容を次のように考えた。

本児に対しては、

- ・ 発音や聞き取りの改善
- ・ 読解など言語学習
- ・ 自分の障害の自覚・認識学習「じぶんのことをしらべてみよう」...資料2

家庭や在籍学級とは、

- ・ 本児自身が「トラブル」と呼んでいる友達関係の課題を、連絡帳や資料提供(みみサポート)により改善する...資料3



資料1

4 授業の記録・連絡帳より

月	ことばの教室の授業	保護者(母)・在籍学級担任(担)の記録
4	自分についての自己紹介 Y:「強くて優しい子にと言う願いで僕の名前がつけられた。ぼくは、耳が聞こえにくくて、聞き誤りや聞き漏らしのおっちょこちよいのところがある。」	母: 聞こえにくさについて・友だちとのトラブルの対処法について、担任や友だちに説明していきたいけれど、「我が子かわいさからの身勝手な願いだ」と思われそうで方法がわからない。

5	<p>自分の快適な聞こえの範囲を、CD プレーヤーのボリュームを動かして調べる。</p>	<p>担：わかっていたつもりでもわかっていない点が多々あることに気付きました。 聞こえにくさ理解の子供向けの本を紹介していただけるとありがたいです。私自身もぜひ読んでみたいと思います。</p>
6	<p>耳の中の様子と自分の聞こえについて学習 Y：「お母さん、僕はどっちの耳が悪いんだっけ？」</p> <p>オーディオグラムの見方についての学習 Y：「だんだん聞こえるようになるの？がんばると耳はよくなるの？」</p> <p>じぶんの聞こえにくさや困ることについて話し合い Y：「聞こえにくくて困ることは特にない。」</p> <p>単語の聴取弁別・確認 自分が聞き漏らしてわからなかったのか、よく聞いていたけどわからなかったのか話し合う Y：「一生懸命聞いたけど判断できなかった。蝸牛の調子が悪いからしようがないのかな」</p>	<p>母：私も一緒に勉強できて良かったです。自分の聞こえについて本人も意識することができないので「自分の障害」について理解するのは難しいし時間がかかるのだらうなと思いました。 担：学習したことを詳しく説明してくれました。絵本も子どもたちと一緒に読みました。</p> <p>担：現実を受け止め自分なりにがんばろうとしている Y 君を思い浮かべ、なんともいえない思いです。</p> <p>母：頭の中で想像しながら聞いているというのは確かにあります。半分位理解して返事をして行動に移すので、『わからなかったら自分からもう一度言ってといいなさい』と言うのですがなかなかです。 担：そういえば学校でも度々あります。まわりの子どもたちも教えるタイミングを失いそれがトラブルにつながることもあります。 担：日直の時友だちに「もう一度言って下さい」と何度か言われましたがめげずに伝えていました。</p>
7	<p>聞こえにくい人のコミュニケーションのいろいろを話し合う Y：「ぼくは耳と話しことばを使っている。指文字や手話は『はーん』という感じ。」</p>	<p>担：グループの仲間との会話が増えてきました。担任のところに直接聞きに来て用を済ませることが多かったのですが、このごろはまわりの子に聞くようになりました。</p> <p>母：一学期は自分の障害や聞こえについての学習は難しいなりに Y にとって良かったと思います。</p>

9	<p>下校途中気持ちの悪い音が聞こえて恐くて泣いて帰ってきたとの報告より</p>	<p>母：夏休みは親子3人の静かな生活でしたから学校が始まると、わいわいがやがやの生活は必要な話を聞くのに神経を使い疲れるようです。 担：「聞こえなかったのもう一度言ってください」と指示を求めることが増えました。周りの様子を見て「いっけない」と思ったそうです。</p>
10	<p>紹介ビデオ作成の計画 相手に分かりやすい話し方に気をつけることを目的に作成</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>学校紹介 運動場 校舎 ことばの教室 インタビュー 校長先生 司書の先生 ことばの先生 授業の様子の紹介 聴き取りや発音練習の様子</p> </div> <p>発音がうまくできなかった時、聴き取りを間違った時、「どうしてぼくはこうなんだろう」と自分を責めるような態度が見られます。一生懸命やればいいんだよと話しています。友だちに見せるビデオには、間違っ てやり直しをしている場面も入れていいと言っています。</p>	<p>母：聴覚障害は見えにくい障害だと言われて います。一人ひとり聞こえ方も違うしそれを他の人は理解することができません。親子でありながらも Y の音の世界をわかってあげられず、なんとも言えないときがあります。...手話サークルに入りました。</p>
11	<p>友だちからの手紙について話し合う...資料4 Y：「みんながしんけんにぼくの作ったことばの教室のビデオを見てくれたのがとてもうれしかった。ただひとつお願いがあります。みんながだらだらしていたり、さわいだりする声がうるさいので静かにしてください。」</p>	<p>母：教室で Y を理解してもらうために心配りや話をしてくださっていることを知り、ありがたく思います。家庭でも少しずつ改めて行く事を注意します。 担：ビデオを見せていただきました。学級の子供達は素直に反応してまいした。Y君のがんばっている様子も伝わってきましたし、Y君理解にも繋がりました。</p>
12	<p>友だちの手紙から自分がこれから気をつけようと思うこと、もっと友だちにわかってほしいことを、紙芝居に作る。...資料5 Y：「最近はともだちとのトラブルが</p>	<p>担：お返事ありがとうございます。クラスの子どもたちも喜んでいました。授業で早速使わせてもらいました。 母：最近の日記には昼休みにサッカーをやっていることが書かれていてとてもうれしい</p>

	<p>少なくなってきたよ。ともだちが野球に入れてくれなくても下手だからがまんしている。乙武さんは乙ちゃんルールをみんなが考えてくれたよね」</p>	<p>です。身体を動かすことが苦手な Y が友だちと遊んでいる姿をこっそり見てみたいのです。ビデオ作成も学級の友だちに理解してもらおうきっかけになりました。</p> <p>担：お互いを理解し合い共に学んでいくことは大人でも難しいですが、子どもたちと取り組んで行きたいと思います。</p>
2	<p>テレビを快適に見るための工夫を考え、文字情報について調べる</p> <p>Y：「ゾイドなど見ている時に、時々なんでそうなるのと意味がつかめなくなることがあるよ。」</p> <p>自分の好きな所や直したいところについて話し合う</p> <p>Y：「好きな所は、よく本を読むところ、運動をするところ、勇気があるところ。直したいところは、おこりんぼうをするところ、すぐカッとなるところ。」</p>	<p>母：ビデオライブラリーで字幕入りビデオを借りることができるようになりました。自覚しているのかいないのか、テレビより本を読むことが多いです。テレビだと 100%理解できないからでしょうか。また新たな世界が広がって行くかもと期待しています。</p> <p>担：給食時間にトラブルが生じました。双方の話を聞いていると食い違いが多いことに気づき、Y君とさらに話すことでした。「事實はしっかり話すことにしよう」ということを今後も気をつけていくよう話しました。</p> <p>担：「6年生を送る会でリハーサルの時と場所が変わっていました。後で聞いてみると、隣の男子が『こっちの方が安定しているよ』とサッ変わってくれたのだそうです。自分で判断して行動に移すことのできる子どもに頼もしさを感じました。</p>
3	<p>気持ちについて考える</p> <p>嫌なこと・好きなことをがまんしないできちんと周りに伝えよう。でも相手の気持ちも考えてね。</p>	<p>担：この頃良いことも悪いことも含めてY君と人間関係について話すことが多くなったように思います。「ぼくはこう思うよ」というようなことばがよくできるようになりました。</p> <p>母：「自分の聴覚のことを理解し、その事をまわりの人達にも理解してもらおう」と難しい課題にも取り組みました。来年度もまたステップアップできるように親子で通級していきたいと思います。</p> <p>担：たくさんのごとにがんばりたくさんのごとを考えた一年でしたね。大事なことはその時その時を一生懸命生きることですよね。これからも共にがんばって行きましょう。</p>

4 まとめ

高音急墜型の聞こえ理解のむずかしさ、小学校2年生までそのことが発見できなかったこと、また保護者の丁寧な子育てで言語の発達に顕著な遅れがなかったことなどから、Y君は、授業中も友達関係の中でもほとんど配慮のない状況ですごしてきていた。

「がんばる」と言うことばが好きな彼らしく、4年生のはじめには「ようし、ことばの教室でがんばって練習して発音もおすぞ！注意して聞いたり、わからなかったことは聞き返したりすることもがんばるぞ！」そんな意欲にあふれており、自分の聞こえにくさについては、客観的な理解が不十分であるように思えた。

そんな中で、本人の口からよく聞かれる友達関係でうまくいかない「トラブル」は起きていたし、保護者も一方的な不利益を受けやすいことをなんとかうまくまわりに説明していきたいという思いも強くしておられた。

そこで、Y君に対しては、自分の聞こえについてもっと深く知ろうということと、自分ががんばることと周りに対して助けて欲しい・考えて欲しいことを少しずつ整理する学習を計画し、そのことをY君の学級での生活に還元していけたらと、積極的な発信をすることにした。

担任のM先生は、毎回丁寧な連絡帳への記入やことばからの発信に対してもその都度応答して下さり、学級担任の立場からことばの教室の授業に積極的に関わっていただいた。紹介ビデオのやり取り学習の後には「学級の子どもたちだけではなく保護者の方々の理解も得たい」と学級PTAで、難聴や我が子のことについて話をする機会を保護者に準備してくださった。

4年生時の一年間で、Y君自身がどれくらい自分のことを知り、その上での考えを持つことができ、実践化できるようになったかはわからないところがあるが、保護者はわが子に対して「まだまだ・・・」「もう少し・・・」という思いはありながらも、このままもう一年、M先生の学級で成長を願うほどの信頼ができていった。

この事例の中で聴覚障害理解のための教材として取り出すと、連絡帳・難聴理解資料「みみサポート」・ことばの教室紹介ビデオ・その後のお返事資料くらいしか挙げられない。日常の通級指導の中で、その時々の実践を積み重ね、Y君の在籍学級での生活に必要なことを検討し作成していったにすぎない。Y君をはさんで担任の先生との関係が深まる中で、一つひとつのささやかな教材を担任と保護者により十分に活用し生かしていただいたという気がしている。

本事例が他の通級児童にも同じように進められたわけではない。また、担任の先生が変われば新しい関係が始まる。5年生になって学級編制があり、担任も替わった。そこで、新たな学級には早速Y君と一緒にビデオレターを作った。「先生にも友だち一人ひとりにも、自分のことを説明し、お願いすることは大変だからな。」と緊張しながらも、伝えたいことを考え、自分はどの部分を発表するか担当者と役割分担し、意欲的な活動となった。

...資料6

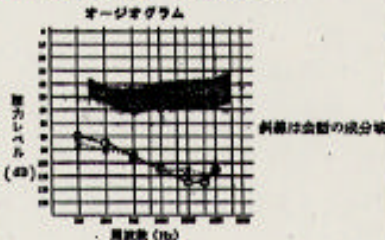
学級担任と難聴通級児童の障害理解のための教材は、一人ひとりの在籍学級での過ごし方や友達関係、学習理解の状況を踏まえて個別に考え、通級指導教室からの一方的な押し付けにならないように留意し、その子を取り巻く学級や家庭との様子や要望を取り入れながら準備されることが基本になると考える。

お母さんサポート NO. 3 東京都立豊洲小学校

ことばの教室

これは、人さんの聴力の状況です。○が右耳、×が左耳、△が聴覚器を着けた聴こえの様子です。右耳に1000Hz（0dB）の音のポツ・ポツ・ポツ・ポツのビーの音の高さが80dBを聴かせると105dBより強い音は聞こえませんがそれより弱い音は聞こえない状況です。

右耳の平均聴力は105dB、左耳の平均聴力は108dB
左耳に聴覚器を着けると44dBになります。



3人の聴力は 右 48、左 48 dB
補聴器使用の状況は △ dBです。

3. 音の強さのしり

この聴こえの状況は一人ひとり異なり、また、同じ聴力でも補聴器の使用の状況はそれぞれ異なっています。そして、耳に音が入ってくる・音が聴こえる・話しを聞き分ける・聴いたことと状況判断が一致することも一人ひとり異なります。

お母さんサポート NO. 4 東京都立豊洲小学校

ことばの教室

教室の中で考える配慮

1. 座席の位置
前方が望ましいです。補聴器は話しから1から3メートルの位置でいい状態で聞き取れるように調整してあります。ただし、周りの様子を見ながら状況判断して行動しているところもあるので、1番目よりも2番目の方が望ましい様子がよく見えるでしょう。
2. 話す時は・・・
顔・口元がよく見えるようにします。
○口型や表情を参考に話の内容をつかむことが多いです。
○文章は短め、簡潔に
○少しゆっくり目にも、一言一言聞かないで
○文字や身振りも有効です
3. 補聴器は・・・
聞こえにくいけれども、大きな音・遠く音にも敏感です。椅子のカタカタ、おしゃべりやガヤガヤ音はうるさがることもあると思います。つまり、快速に聞こえる範囲が狭くなっています。
また激音や水に大変弱い、高周波領域です。
4. クラスの友だちに・・・
○聞こえにくいことや、補聴器の役割について話してください。
○聞こえにくい場面やわかっていない時（校内放送・ブーム時など）や近くにいる子に教えてくれるよう話してください。
聞こえにくさ理解の子供向けの本等、必要でしたら連絡ください。



お母さんサポート NO. 5 東京都立豊洲小学校

ことばの教室

遠征や宿泊学習、修学旅行など、校外学習の時期となりました。いつもの学校生活とは異なった環境の中では、聞こえに障害を持った子ども達は、聞こえる子どもたち以上に不安が大きいものと思います。それは、

- ・見学をしながらまたは活動しながらの口頭による説明は、周囲の様子や音に邪魔されてよく聞こえない上に、説明もしにくい。
- ・ハンドマイクでの指示や館内放送・防災放送などが伝わりにくい。
- ・急な予定変更や指示がきちんと伝わらない場合、どう行動していいかわからない不安になります。



このような配慮が考えられる

- ・同じ班の友だちに助け合うことを教えてほしい。聞こえにくい状況やわかっていないような時には、近くにいる友だちに援助してもらえよう関係を！
- ・特に緊急の事態の指示には気を配ってほしい。
- ・文字情報による案内（しり）などは、事前に活用されやすい。

先日授業の中で・・・夫人になって一人暮らしを始めた「見直し時期が聞こえない」「電報の話しがわかりにくい」「ドアのチャイムがわからない・・・そんな話をすすめていたら、「やっぱり聞こえない人は聞こえる人のサポートがないと生きていけないのだ」と耳障りがつきました。「聞いていたら話がさっさと終わるよ。」「アプタスも携帯メールだってあるじゃない。」安心して大人になっていってよ。自分への自信と勇気をもって欲しい。そんなことを考えさせられた授業でした。

お母さんサポート NO. 9 東京都立豊洲小学校

ことばの教室

学習のひとつま

11月のある日、保護者も子どもももういっしょの活動となりました。それも初めて2日間。「友だちとよっつ・・・」「話を聴け出して・・・」というそれぞれの報告でした。お母さんの話しや声と、子どもの話しや声（それも大好きなお母さんに話したい思いをきかせ、またやっちゃったという謝りと一緒に笑い合っていました。その両方は別々の活動でしたが、連絡それぞれの事柄の親友を聞き取りながら話し合う授業をしました。その中で気づいたことは、

- やったこととわかれたことは事実として話しているけど、どうして自分はそうなのよ。ことばでもちゃんと話を聞きたかったのよ、聞いていないもしくは第三者の私に報告する中で話けずい手を感じました。

また、たまたま二人のグループ学習を計画できたので、自分の好きなところ、嫌いなところ、楽したい活動をしました。「誰にでも好きな自分と嫌いな自分がいるよね」というとそれぞれに書き出し、私のいい面も嫌いなところも書いてくれました。その授業の中で感じたことです。

- 自分の好きな顔に比べ、嫌いな自分・楽したい自分は嫌われること嫌むこと

いつも周りに人にそう言われたりつかれてはいるのだけれどと悪いながらも、「でも、私や彼の代わりには誰にもいないから、自分のことは自分が一番大切にしたい。好きになってね。」とまとめました。うーんと考え、それでもやはり「お父さんお母さんが一番好きだよ」と言われたら、って言われたらいいけど。

その日の朝の先生方からの連絡帳からは、「一人ひとりとじっくり向き合いたい」「自己中心的・わがままと言われやすい事を、本人の理解と聞こえにくさによって話していることを分けて考えたい」とお母さんからの連絡がありました。

聞こえなくても聞こえにくさを持っていても、どの子どもでも大人もそうでしょうが、自分を大切に自分で生きていきたいと願っています。自分に対するマイナスのイメージや自己否定感から、あるがままの自分のペースで生きていっていいのだという気持ちをぜひ育み上げてほしいと願っています。「向は自分が一番好き！」って言うときとんとしている顔がにっこり笑顔でした。



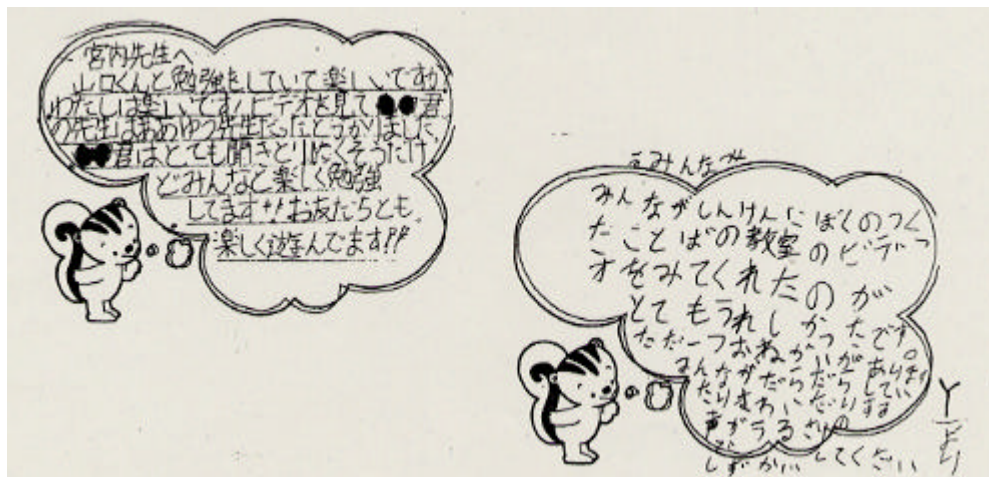
1組の友だちからのメッセージ

Yくんへ

- ・ ことばの教室は思っていたより楽しそうにですね
- ・ 発音練習や聞き取りの勉強がんばってね
- ・ Y君はがんばっているなあ
- ・ 本を読んだり聞き取って言ったりするのはすごいと思います
- ・ 早く「さしすせそ」などじょうずになってね・複数
- ・ 目も悪いし耳も悪いので大変ですね。
- ・ ことばをはっきり話せないからがんばってほしいです。
- ・ ビデオを見せてくれてありがとう。
- ・ たいへんなことをがんばっているからすごいですね。
- ・ いろいろと苦労しているんだね。
- ・ 保育園のときはあんまりわからなかったけど、耳のこと初めて知りました。
- ・ いろんな先生にインタビューして どうでしたか？

担当へ

- ・ ことばの勉強がわかるようになるには、何日くらいかかりますか
- ・ どうしてことばの教室の先生になろうと思ったの？
- ・ Y君とはけんかもしたりするけど仲良しです。
- ・ Y君は、笑ったりおこったりずっこけたりしています。
- ・ ことばの教室の先生は、いろんな人と勉強してわけがわからなくなりそうです。
- ・ ことばの教室はとても楽しそうな学校ですね。
- ・ 学校ではとても聞き取りにくそうだけど、みんなと楽しくお勉強しています。



さしすせその発音について

③

資料5

ビデオの中で山口君が「ききとり」や「発音」の練習をしている様子を見てもらいました。おたよりの中に「早くじょうずにならね」とか「聞きとれるようになってね」とたくさんのおたよりの人のおたよりのことばがありました。がんばり屋さんの山口君は、いつも真げんです。

でも、どんなおたよりの人も ききを
なおすことは まだできないし、
自分の耳に とどかない音を
きいた 発音することは とても
むずかしいことです。

この音で
おたよりの
おたよりの

キキキ
キキキ



ききにくさや ききえ方は
人によって さまざまです

さしすせそやちやきが はまり 聞きとれなくても

④

「ほろ□ようで ゆびを □って □がでたら」と言われたら
□には 何が 入るか 頭の中で 聞いて 意味は、わかります。

聞きえにくいために 苦手なことは まだ あります。

- 歌のメロディーを 正しく歌うこと
- うるさい中や グループで 話すこと
- 遠くの人と 話すこと
- 音楽に合わせて おどること

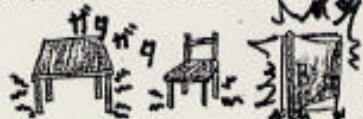


人間 だれでも
とくいなことと 苦手なこと
好きな自分と なおしたい自分
がいるよね。

⑤

聞きまちがえたり、聞き返したりしても
いやな顔をしなくてほしい。
(お願いするのにはこう勇氣が必要)

静かな場所で 1対1で
話すのは 大じょうぶ。



資料6 5年生の学級へ ビデオレター内容

T...担当者 Y...通級児童

1, 聞こえの仕組みについて

T:「 小学校5年1組のみなさん, こんにちは。香月小学校ことばの教室の宮内です。今日は, Y君と一緒にことばの教室からお話したいと思います。Y君はどうしてことばの教室にきているのですか? 」

Y:「ぼくは, 耳の聞こえが聞き取りにくいので, 発音の練習や聴き取りの練習をしにきています。」

T:「そうですね。Y君はみんなと違って耳の聞こえが悪いです。では, 聞こえるとか聞こえないとか言うことはどういうことなのでしょうね。この図を見てください。

(耳の中の図)

カスタネットの音がカチカチとしています。この音はまず...

Y:「耳介から入っていきます。」

T:「そして外耳道, みんなが耳かきをするところを通して...」

Y:「鼓膜を通ります」

T:「そうですね, 鼓膜をぶるぶる震わせます。そしてこの小さな三つの骨が...」

Y:「耳小骨と言います。」

T:「この三つの小さな骨の橋を渡って, このぐるぐる巻きのカタツムリのようなところが...」

Y:「蝸牛です。」

T:「蝸牛の中を通して聴神経を通して脳に伝わります。するとこの音が頭の中で『あっ, カスタネットの音だ』とわかる仕組みになっています。」

2, 聞こえにくさ 聴覚障害について

T:「では, Y君はこの耳の中のどこが調子が悪いのですか。」

Y:「ぼくは, この蝸牛という器官が調子が悪いのです。」

T:「そうですね, この蝸牛が少し傷ついています。鼓膜や耳小骨や外耳道は, 手術や薬で治る事もありますが, 蝸牛を治すことは難しいと言われています。この, 後ろにあるのがオーディオグラムと言います。耳の検査をすると, 皆さん聞こえる人の耳は, この0dBの辺りが聞こえます。ひそひそ話も遠くから呼ばれても, 小さな虫の声も大きな太鼓の音もみんな聞くことができます。ところがY君の左耳はどの辺りで聞こえていますか。」

(オーディオグラム)

Y:「110dBの辺りです。」

T:「そうですね。トラックの走る音やジェット機のゴーッと言う音が聞こえるかなあという所です。右耳はどうですか。」

Y:「50dB位です。」

T:「そうですね。低い音はみんなと同じくらい聞こえているけれど, 高い方では犬の鳴き声が聞こえるかなあという辺りです。例えば, 『なつやすみ』と言うことばは, 音が小さくなった上にとこどこ正しく耳に入ってきてません。みんなと同じように聞こえているわけではありません。」

(図)

n a t u y a s u m i

n a t u y a s u m i

n a t u y a s u m i

3, 聞こえにくくて困る事

T:「それでは Y 君は聞こえにくいと言う事ですが, 学校の中ではどういうことが困っていますか?」

Y:「後から言われる事がわかりにくくて困ります。それから, 放送がわからないことがあります。」

T:「そういう時には皆さん, 教えてくださいね。」

Y:「それから, 周りが騒がしいとちゃんと聞き取れないことがあります。」

T:「そうなんですか。それではみなさん, こういう場面を考えて下さい。先生が, 耳の聞こえにくいお友達に『昼休み何して遊ぶの?』と聞いています。ところが, Y 君の周りではお友達が昼休みになったのでペチャクチャ, ガヤガヤお話をしています。それから隣のお友達が, 机や椅子をガタガタ動かして運んでいます。そしてどこかでは, 筆箱がガチャンと落ちたようです。『昼休み何をして遊ぶの?』と言われた声は, おしゃべりの声や, 椅子や机を運ぶガタガタの音, 筆箱が落ちたガチャンという音にかき消されて, 何がかんたかわからなくなってしまいました。」



4, みんなへのお願い

T:「さて, そんな Y 君から皆さんにお願いがあるようです。」

Y:「ゆっくり目に話してください。前の方から話しかけてください。それから, わかりにくいことはメモに書いてください。例えば遊びの時の時間などは教えて下さい。よろしくお願いします。」(絵カード)



T:「耳の聞こえにくいお友達は みんなといっしょに学校生活を送っています。いろんなところで困る事があるようです。Y 君が, 一番淋しい思いをする事はみんなと遊ぶ約束をする時に, 時間を間違えたり, 遊ぶ場所がわからなかったりする時のようです。そんな時は, 例えば文字に書いたり, 身振りで伝えたりするとわかり易いと思います。これからも, みんなといっしょに楽しい学校生活がすごせるようにと思います。これで, 耳の話や聞こえにくさについての話を終わります。さようなら。」